『地球の発明発見物語』西村寿雄　著　　近代文藝社　2010 年 12 月　1600 円

みなさんは、聞いたことがあるだろうか？　星の光のふしぎな力が、貝の形の石をつくったと。レオナルド・ダビンチが化石の研究をしていたころ、人びとは貝化石を見てそう考えていた。

この本には、ダビンチだけでなく、2500 年も昔のピタゴラスから、ハットン、ライエル、ウェゲナー、モホロビチッチ、平朝彦まで 18 人の科学者がどのように地球・化石・地層を研究したか、その様子と移り変わりが 14 の話になってのっている。どの科学者もイキイキと描かれ、読んでいると、まるで研究の場に居合わせたような、一緒に野山を駆け巡っているような気分になる。

他にも、地球の歴史・凍ったマンモス・ベスビオ山・塩の山・石油・サファイア・辰砂などの話がまとめられている。子どもが興味を持ったところから読める。また、おとなの入門書としても楽しめる。

最後に、たくさんの参考図書が項目別にきちんと紹介されているので、もっと調べたい要求にもこたえてくれる。

板倉聖宣さん達が、かつて国土社から『発明発見物語全集』を出版した。私は、このシリーズが大好きで、科学あそびのときに、特に『磁石と電気の発明発見物語』や『原子・分子の～』『化学の～』などを子どもたちに紹介している。そのシリーズには、『地球の～』が出版予定として宣伝されていたが、25 年を経てようやく、それに代わるものが出た感じがしている。

科学読み物研究会　坂口美佳子